



～環境にやさしいエネルギーの 利用を目指して～

中川 正裕 有限責任中間法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO₂）の排出が増え続けています。2004年の世界における排出量は、260億トンに達しており、特に、ここ10年間での伸びが顕著で、アジアにおける石炭火力発電所の建設が進むなど工業化が進み、排出量が大幅に増えています。国際エネルギー機関（IEA）によりますと、このペースは今後も続き、2030年の排出量は、140億トン増え400億トンにも達する見通しです。

一方、我が国に目を向けますと、世界における状況と同じく、エネルギー使用量の増加に伴い、CO₂の排出量も増えていっております。また、日本におけるCO₂排出量は、2005年度において約13億トンで、基準年である1990年と比べると13.3%増加しており、前年度と比べても0.8%の増加となっております。

このままのペースが続いた場合、アメリカの国立研究所の試算結果によりますと、北極の氷が、2040年にはほぼ消滅すると予測しています。これまでも2070年には消滅するとの予測がありましたが、最近の試算結果によりますと、その時期が30年も早まっているそうです。また、温暖化によって、日本の夏の気温は4.4度上昇し、熱帯になると言われています。このような地球の変化を食い止めるために、私たちがやらなければならないことは何でしょうか。そのひとつの視点として寄与できることは、よりCO₂の排出量が少ない、環境にやさしいエネルギーを利用することではないかと思っております。

電気の供給サイドにおける取組みとして、電気事業連合会におきましては、発電の際にCO₂を排出しない原子力発電の利用率の向上や、水力・地熱など再生可能エネルギーの開発など、より環境にやさしいエネルギー供給を目指しています。なお、今後の排出抑制量については、2008～12年度の5年間平均における使用端CO₂排出原単位を、1990年度実績から20%程度低減することを目指しており、これに向けてより一層努力していくこととしています。

また、もうひとつ大切となってくるのは、よりエネルギー効率の良い、環境にやさしい機器の開発および利用を促進することだと思います。なかでも、最近、普及が大幅に増えているエコキュートについては、ヒートポンプ式の給湯器なので、使用する電気エネルギーに対して、3倍以上の熱エネルギーを得ることが可能であり、エネルギー効率が高く、環境にやさしい機器だと言えます。

当センターでは、エコキュートをはじめとして、環境にやさしい電気加熱機器の普及を促進し、省エネルギー社会の創造を目指してまいります。また、地球環境とエネルギーの調和を図りながら、バランスの取れた普及に努めていく所存でありますので、今後とも、会員の皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（ながわ まさひろ）九州電力（株）お客さま本部 エネルギーソリューション部長